

御蔵島初記録トンボ 2 種の報告

小木万布

一般社団法人御蔵島観光協会 kogi@mikura-isle.com

はじめに

御蔵島のトンボ類は、澤田・渡辺（1969）や荻部ら（2013）にまとまった報告があるが、種数は多くない。2021 年に行われた水生昆虫の調査で、オオシオカラトンボ *Orthetrum triangulare melania* の成虫が初記録されている（佐野 2022）。筆者らが撮影したトンボ 2 種が、御蔵島において初記録であったのでここに報告する。

結果

ネキトンボ（♂）*Sympetrum speciosum*：2022 年 10 月 10 日 10 時頃、小林仁人氏によって撮影された。撮影場所は、ウタツ川に沿って登っていく道（通称：ダム道）終点付近の砂防ダム。撮影時、一時的に雨水が溜まって池になっていた（図 1）。



図 1. ネキトンボ（小林仁人氏撮影）

アジアイトトンボ（♀）*Ischnura asiatica*：2020年8月6日18時頃．西川村営住宅付近を飛んでいるところを捕獲，撮影した（図2）．その前日から周辺で見慣れないイトトンボを確認していた．なお，本種は2022年8月25日8時25分にも里中で観光協会壁面に静止しているのが撮影された．



図2. アジアイトトンボ（小木撮影）

考察

ネキトンボは，八丈島では平地から山頂まで見られ，八丈富士山頂の中央火口丘湿原の池塘では優先種となっている（荻部ら 2013）．御蔵島で一般にアカトンボと称されるトンボは，ウスバキトンボ *Pantala flavescens* である．それらに比べてネキトンボは明らかに赤の濃い体色をしおり目立つにもかかわらず，これまで報告がなかった．御蔵島において本種に適した生息環境（樹林に囲まれた安定した池沼）は，御代ヶ池くらいしか当たらない．今回見られた個体は，移動個体である可能性が高いだろう．

伊豆諸島におけるアジアイトトンボの記録は，八丈島での調査記録と三宅島での文献記録のみである．荻部ら（2013）は，移動個体の偶産的事例か人為的移入の可能性を述べている．今回，御蔵島で見られた2個体は，いずれも8月であったため台風などによる迷入の可能性と，年を隔てていたため少数が生息している可能性の両方が考えられる．本種とよく似ているアオモンイトトンボ *Ischnura senegalensis* は島嶼部も含め広く分布しており，御蔵島にも生息する．今後もイトトンボの観察機会があれば，確実な同定ができるよう記録しておく必要があるだろう．

今回の記録によって，御蔵島で記録のあるトンボ類は11種となった（表1）．オニヤンマ，ウスバキトンボ，ヤブヤンマ，タカネトンボは観察機会も多く，御蔵島における普通種

といえる。ただ、タカネトンボは他の伊豆諸島ではほとんど見られず、松本（1979）は特筆すべきこととして挙げている。金属光沢のある非常に綺麗なトンボなので、機会があればぜひ観察していただきたい。また筆者は御蔵島で採集されたギンヤンマの標本を所有していたが、採集ラベルがなく、いつ作ったものか記憶も曖昧であったため本稿には含めなかった。神津島や三宅島、八丈島にも生息するギンヤンマは、御蔵島に飛来していてもおかしくない。トンボは飛翔能力が高く、鳥類のように飛来記録だけの種が見つかる可能性もある。偶発的になるだろうが、引き続き記録を残していきたい。

表 1. 御蔵島で記録のあるトンボ 11 種

観察頻度は著者主観による表示で、◎里中で普通に見られる、○生息適地でよく見られる、△年に1度見られるかどうか、▲ほとんど見たことがない、×ほぼ見ない(見たい)。

種名（標準和名）	学名	観察頻度
アジアイトトンボ	<i>Ischnura asiatica</i>	×
アオモンイトトンボ	<i>Ischnura senegalensis</i>	△
オニヤンマ	<i>Anotogaster sieboldii</i>	◎
ヤブヤンマ	<i>Polycanthagyna melanictera</i>	○
タカネトンボ	<i>Somatochlora uchidai</i>	○
シオカラトンボ	<i>Orthetrum albistylum</i>	▲
オオシオカラトンボ	<i>Orthetrum Melania</i>	×
ネキトンボ	<i>Sympetrum speciosum</i>	×
コシアキトンボ	<i>Pseudothemis zonata</i>	▲
ハネビロトンボ	<i>Tramea virginia</i>	×
ウスバキトンボ	<i>Pantala flavescens</i>	◎

謝辞

小林仁人氏は、偶然見つけたトンボを珍しいと直感し撮影、その写真のおかげで島の自然を構成する一員を新たに記録することができました。観音崎自然博物館の佐野真吾氏は、種同定や本稿をまとめるにあたり有益なアドバイスをくださいました。両氏に深く感謝申し上げます。

参考文献

- 苧部治紀, 須田真一, 梅田 孝, 林 秀信. 2013. 伊豆諸島のトンボ相. *TOMBO* (55) : 99-114.
- 松本和雄. 1979. 伊豆諸島の蜻蛉類. *月刊むし* 104号 : 19-22.
- 尾園暁, 川島逸郎, 二橋亮. 2022. *ネイチャーガイド日本のトンボ改訂版*. 文一総合出版.
- 佐野真吾. 2022. 御蔵島で確認された水生甲虫 (ゲンゴロウ類・ガムシ類) およびトンボ類の幼虫. *Mikurensis* Vol.11: 3-10
- 澤田玄正, 渡辺泰明. 1969. 御蔵島の昆虫相. *東京農業大学農学集報* 14 (1) : 1-49.